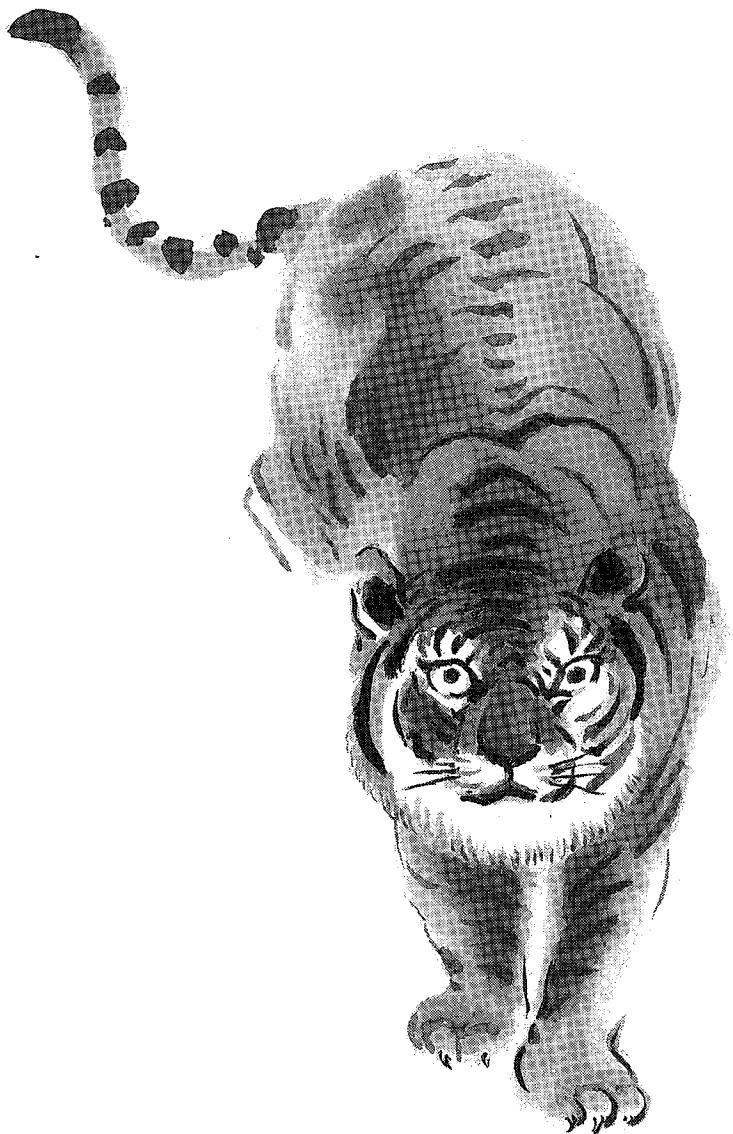




東京都家庭薬工業協同組合会報

かていいやく

平成10年1月 通巻62号



かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、よって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款 第1章 第1条(目的)より

目 次

通巻62号 1998年1月20日

年頭のご挨拶	塩澤 護	3
新年のご挨拶	阿部 尚武	4
新春特集・家庭薬展望		
家庭薬はどうあるべきか		
薬事日報社	井上 純二	5
薬業時報社	藤田 道男	6
薬局新聞社	横田 敏	7
昔ながらの薬は安心	新宅るり子	8
いいものは続けて欲しい	水森 垣土	9
伝統薬物語/救心		10
委員会だより		12
薬事、GMP、流通、広告、労務、 厚生、総務・財務、消費者対応、広報		
会員会社紹介		
㈱アラクス		13
大草薬品(㈱)		14
小林製薬(㈱)		15
参天製薬(㈱)		16
情報協業化委員会発足にあたって		19
やっぱり家庭薬		21
大高薬局 大高 清		
会報によせて	松井 寿一	22
追悼 津村重舎最高顧問		24
偉大な津村重舎さんの足跡	太田 昭	
家庭薬グラフィー		26
事務局だより		28
編集後記		
表紙題字・第4代理事長・津村重舎		
表紙 絵・相談役	堀 泰助	

価値の拡大をめざして

理事長
塩澤 譲



明けましておめでとうございます。皆様方には、お健やかに佳き新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

昨年中は、当組合の運営につきまして、また設立50周年記念式典の開催に際しましても、格別のご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。本年も、何卒ご高配を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、何度、テレビ画面に向かい、「エー」と声を上げたことでしょうか。事件と破綻に驚き、逮捕に憤り、事故を嘆く。残念ながら明るいニュースの少ない年となっていました。

しかし、経済界の事件については、「出すべき謳をだした」感も強く、良くなる兆候が見えてきた、と解釈することも可能です。暫時、雌伏の時は続くものの、雄飛の時は必ず至る、と判断しております。

ここ数年の消費実態は全くもって悲観的なものというわけではなく、沈滞ムードが牽引役を果たした結果であると言えます。そのため、この状況に政府の速効性のある何らかの経済政策が処方されれば、日本経済は徐々に快方に向かうはずと信じます。

個々の企業においても、経済構造の変化を的確に見極め、その対応策を遅滞なく講じれば、徒に体力を消耗させることはないものと思います。

このような社会経済情勢のもと、私どもの業界は、一連の規制緩和、医療保険制度改革、薬価収載問題等により、さらに複雑な環境下

に置かれています。将来については、予想も予測も不能、とするのが最も正確かもしれません。

しかし、唯一確実なのが、セルフメディケーションの担い手としての我々の使命は、ますます高まるということです。そして、全うすべき使命が高まれば、果たすべき責任も自ずと重く、大きくなるということになります。

日頃、我々が第一義としている倫理性を、さらに研ぎ澄まし、市場拡大の機運に備え、社会の期待に応えていかなければなりません。

市場構造と消費構造は、予想をはるかに上回るスピードとスケールで変化しています。こうした変化に適切に対応すべく、我々の組合においても積極的な活動が要求されています。

研究・開発の面でも、流通・販売の面でも実効のある議論が展開され、将来に資する結論が導き出されることが期待されます。

そして、連携を密にしながらも、長い歴史のなかで育ってきた独自性を大切にし、商品の「価値の拡大」をめざす…、そうした今後にしたいものだと思います。

世紀の区切り、ということでしょうか、ここ数年、大波から小波まで、乗り越えなければならない波が、次から次へと押し寄せてまいります。辛い航海であればあるほど、達成感も大きいものです。決して諦めることなく、しっかりと舵を取り、着実に船を進めていきたいと思います。

(養命酒製造株式会社 社長)

新年のご挨拶

新年を迎えて



東京都衛生局薬務部長
阿部尚武

新年明けましておめでとうございます。

東京都家庭薬工業協同組合の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日頃、東京都の薬務行政には格段のご協力を賜っておりますことに厚くお礼を申し上げます。

さて、東京は成熟社会を迎えて大きな時代の転換期にあり、都政には、従来のやり方や制度にとらわれない発想で新しい時代を切り拓いていくことが求められています。

こうした状況に的確に対応し、昨年2月に策定した「生活都市東京構想」に掲げる目標の実現に向けた具体的なみちじを示すため「生活都市東京の創造 重点計画」を昨年11月にとりまとめました。

この計画は、平成10年からの3か年の都の行財政運営の基本指針となるものです。

計画の策定にあたっては、都政の主要な政策課題として、少子高齢社会への備え、直下地震など災害対策の推進、循環型社会の形成、活力とゆとりに満ちた都市づくり、くらしを支える産業の振興を重点的に取り上げるとともに、施策や事業の点検を行い、見直しを進めて、新しい時代にふさわしい政策への転換を図ることをめざしています。

衛生局関連の施策としては、

少子高齢社会に備えて、さらに介護保険制度の導入をも視野に入れながら①療養型病床

群の整備支援、②障害者の地域生活への支援、③地域医療システムの構築、④母子保健医療体制の整備などを計画しています。

ところで昨年は、一昨年来の医薬品の安全性に係わる問題を受けて、治験の充実、承認審査の強化、市販後対策の体系化など薬事制度の改正や厚生省の組織が改変整備されるなど、課題に取り組む年がありました。

また、医薬品の規制緩和については引き続き検討中であり、平成10年度実施予定と伝えられております。規制が緩和されれば結論によつては、貴業界に大きな影響も考えられ、この議論の行く末には強い関心をもつております。

このような社会経済情勢の中で貴業界におかれましては、課題も多いこと存じますが、家庭薬という身近に親しまれ信頼されている医薬品の製造販売を通じて、都民の保健医療の向上のため、引き続きご尽力賜りますようお願い申し上げます。

都民一人ひとりが、長い生涯をいきいきと豊かに生活していくためには、「健康」は、まさしく基本的な条件です。これに貢献していくことが私どもの使命であります。

私も微力ではございますが、この使命を果たすため、なお一層努力してまいる所存であります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

家庭薬とは何かを明確に

薬事日報社 編集局次長
井上純二



「家庭薬」という言葉の響きから思い浮かぶイメージは、①時代を超えて現在も親しまれる身近な薬②家庭の中で親から子供・孫へという形で伝えられる薬③ちょっとした時に家族が安心して使える手軽な家庭常備薬④原料は薬草など天然資源をもとにしたもののが主体⑤その長い歴史性ゆえに伝統薬ともいえる……などの点が考えられる。

このように家庭薬にはいろいろな要素がある中で、特に「家族が安心して使える手軽な家庭常備薬」という言葉に集約されよう。しかし、こう言ってしまうと、「家庭薬」と新薬メーカーによる「大衆薬」との違いが出てこない。こここのところを明確にすることが必要だろう。

もう一つは、今日では核家族化の進行で、家族そのものの実態が変わってきている。結婚後の親との同居は少ないし、核家族の中にも親は共働き、子供は塾通いというすれ違いのパターンが広がっている。そうした中で家庭薬をどのように方向づけるかが、最大の課題だといえよう。

ここでは家庭薬の持つ「安心さ」を特に強調したい。家庭薬の場合の「安心さ」は、いわゆる薬の安全性という言葉だけを意味するのではない。それこそ家庭薬には幾多の時代を超えて存在してきたという、日本の文化としての「安心さ」「やさしさ」「身近さ」「親しみやすさ」「温かさ」など、他にはあまりない要素も加わるからだ。

もちろん、家庭薬の伝統的な歴史性ばかりを強調しようというわけではない。歴史性があるものはそれを踏襲するだけでなく、いつ

の時代であっても、その上で新たな歴史を築き上げなければならない。そうした伝統ある精神を守りつつ、製品開発や広告表現、流通の在り方などにしても、その時代に合ったものを構築していく必要があろう。

ところで、家庭薬業界側がいくら「家庭薬」と標榜しても、一般の人には「家庭薬」という言い方が一体何のことかよく分からないという側面がある。まずはこここのところを明確にしていくことを提唱したい。すべてはここから始まるといっても過言ではない。そうした問題の検討は、東京でいうなら東京都家庭薬工業協同組合に期待したい。

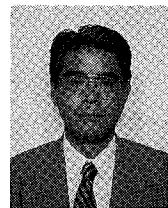
その上で、組合は行政への対応はもちろん、対消費者対策、対組合員対策などについて検討すべきである。その中で例えば、組合が家庭薬の良さを社会にアピールする共同キャンペーンを開催するとしたら、家庭薬の位置づけを明確にしておかないと、極めてパンチに欠けるものになるといわざるを得まい。

こうした組合としての消費者対応もさることながら、各メーカーにおける薬局・薬店への対応が大事なことはいうまでもない。薬局・薬店からは「家庭薬メーカーさんはほとんど来てくれない」という声も聞く。実際にサンプルや製品のパンフレットが欲しいという薬局・薬店サイドの要望もあるからだ。

家庭薬メーカー側には人材の投入に限界があるだろうが、それはそれとしてこうした要望に精一杯応えていくことが望まれよう。もちろん、長期的な展望も大事だが、現実的にできるところから着手していくことが、当面の課題ではないだろうか。

生き残る鍵は「顧客志向」

薬業時報社 Pharmaweeek 編集長
藤田道男



“家庭薬”について一般消費者はどのようなイメージを持っているのだろうか。大概の人は商品名を聞けば「小さいときから知っている」「今でも使っている」「薬箱に入っている」などの答えが返ってくることだろう。つまり、家庭薬は“伝統的な和漢薬を中心とした家庭の常備薬”として認識されているのである。

しかしながら、消費者の意識が「なくてはならない必須アイテム」というレベルにまで達しているかと言えば否定的にならざるを得ない。

一方、薬局・薬店、ドラッグストア等の売り場でも、ことさら家庭薬が大事にされているという印象は受けない。それどころか、安直な安売り商品として便利に使われている状況すらみられる。その原因はどこにあるのだろうか。果して家庭薬に未来はあるのだろうか――。

消費者の多くは家庭薬に対して「中高年向け製品」のイメージを持っている。つまり若い人にとってはさほど魅力を感じない商品なのである。

従って家庭薬活性化の第1は、「若い世代向けの商品開発」である。これは、ゼロからの出発である必要はない。長年培った家庭薬のブランドイメージも若い人に受け入れられる、おしゃれなものでなければならぬ。場合によっては、小包装品、トライアルサイズなどによりサーチをすることも必要だろう。

第2にはチャンネル政策である。これまで

家庭薬に対して、薬局等が積極的に販促に取り組んできたとは言い難い。それは小売店が販売意欲を持ち得なかつたということに原因がある。従って小売店が家庭薬を大事に育成し、販売に意欲が持てるような環境を整備する必要がある。

家庭薬は、“常備薬”的な使われ方をする特徴があり、価格訴求はさほど重要ではない。従来はメーカー側も価格政策にあまり注力せずに、小売店サイドに任せきりであった。流通を無視してきたということにほかならない。販売意欲を高め、小売側にも十分な利益を保証する流通政策、価格政策が必要になる。

第3には、販促の再検討である。とくに従来のままの広告表現では、依然として「中高年向けの伝統薬」の範疇から抜け出すことはできない。前述したように『ブランドを育てながら』『若い世代向けの商品開発』を行い、並行して『新規顧客獲得』にむけた広告宣伝が必要だ。そうしたメーカーの意気込みは小売側にも伝わるはずである。

現在の薬局・薬店数は約7万店。商業環境の変化、規制緩和、ドラッグストアの台頭等々、医薬品小売業界は激変の時代を迎えている。今後、ヘルスケア産業として生き残っていくための鍵は「顧客志向」にある。「顧客志向」を基本に、環境変化を見据え、新たな飛躍につなげる取り組みを開始するならば、家庭薬の将来は極めて明るいものになるはずだ。

家庭薬こそ本物の大衆薬

薬局新聞社 編集部長
横田 敏



平素は大変お世話になり、東京都家庭薬工業協同組合の皆様方に心より厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ここ1、2年、医薬品を取り巻く環境変化はすさまじい。それは家庭薬そのものの位置づけにも大きく影響している。昨年はOTCにスイッチされたH₂ブロッカーや、改正健保法等による薬剤費一部負担の増加等で、新薬・直販メーカーのOTCが脚光を浴びた。

しかしながら、家庭薬は長い歴史のなかで厳選され、現在も脈々と生き続けている古典作品と同様に、最も優れた本物の医薬品である。そういう点では家庭薬へのニーズは、医薬品を取り巻く環境がどのように変革されようと不変である。

ただし、周期的にクラシックブームが起こるよう、高齢化社会や健康指向が高まっている現在こそ、「時代を生き抜いた安心できる医薬品」等をキャッチコピーにして、家庭薬ブームを引き起こす千載一遇のチャンスでもある。医薬品のもつ性格上、ブームという言葉は適切ではないが、家庭薬の持つ社会的役割・資源をもう一度見直すことは、特に現代社会のなかで十分価値があり、必要とされているのではないかだろうか。

また平成10年度中に実施が予定されている医薬品販売の規制緩和は、家庭薬の流通環境に大きな変化をもたらさざるを得ない。そしてこの変化は、現在ややもすると閉塞的な環境に陥っている家庭薬に新風を吹き込み、むしろ追い風となって、家庭薬・新時代の幕開けになるのではないかと期待される。

医薬品流通はかつてのメーカー主導から小売店主導、そして今年は「消費者主導の家庭薬元年」に位置づけられ、その販売店ルートも大幅に変化するだろう。

家庭薬の前身は売薬で、生活者にとって最も馴染みのある、いわば「庶民の味方」だ。その歴史は『金瘡秘伝』(1578年・天正6年)によると、「西大寺豊心丹」が最も古いとされ、現在、一般的に家庭薬といわれるようになったのは昭和19年、当時の灘尾衛生局長による。

いずれにせよ、この伝統ある家庭薬はこれまで薬種商や薬舗、あるいは薬局・薬店などの専門店で販売され、幾多の変遷を経て流通・広告などを含め、医薬品としての秩序を保ってきた。ところが規制緩和によって、全ての家庭薬とはいえないが、平成10年度中、速やかに一般小売店での販売が実施される見込みだ。これは家庭薬・売薬の流通にとっては、まさに歴史的な改革である。

長寿社会やセルフメディケーションの時代には、安全性が高く有効な薬は必ず売れる。それはまさしく家庭薬の強みであるが、この流れにうまく乗るためににはメーカー、あるいは業界団体の保守的な体質を改善することも必要だろう。

現在、残念ながら地域の薬局・薬店は、大店法の実質廃止や医薬品・化粧品が再販制度から除外され、さらに追い打ちをかけるように一部医薬品の販売規制緩和等で、自閉症的な閉塞感に陥っている。チェーンDgSさえも、多店化の宿命として急激な競争激化により、上場・店頭公開会社を軸に提携・合併時

代に突入した。それを証券会社やベンチャーキャピタルが煽っているともいわれる厳しい時代である。

家庭薬メーカーも、それに合わせて閉鎖的な、あるいは保守的で排他的な感覚に陥っていないだろうか。今後は規制緩和により、小売店側の流通経路が大きく変わり、一気に開かれた流通環境に突入する。そういうなかで今後、家庭薬がどういう位置づけになるかは、最も注目されるところだ。

家庭薬は生活者が選択する…、これは小売業界にとっては実に厳しい時代ではあるが、家庭薬本来の姿に戻ることなのかもしれない。明治時代、西洋医学に基づく医薬品が高嶺の花の時代、家庭薬・壳薬はまさに大衆薬として生活者の味方で、かつその役割を十分に担ってきた。

そしてまた、現在、家庭薬が開かれた流通の形で復興の時代がきたのかもしれない。生活者に対して家庭薬の持つ性格をもっとPRする役割が、全国家庭薬協議会はじめ、東京都家庭薬工業協同組合、各メーカーにあるのではないだろうか。

そして規制緩和により販路が拡大されるなかで、一般の薬局・薬店は販売規制の緩和により、大量に店先に陳列して消費者にPRする一方、専門店としてより先鋭化していくべきだろう。

消費者の声

効きめが穏やかだから
安心して飲めますね。



新宅るり子さん/東京都目黒区

■昔ながらの薬は安心

小さい時から虚弱でしたから、母がドクターミを煎じたり、漢方的な、自然の薬をよく飲ませてくれました。20代の頃は中将湯を飲んでいました。父が被爆者、母も二次被爆者で、私はいわゆる被爆二世なんんですけど、そんなこともあり、身体が弱かったのかもしれません。性格的に過敏なところがあり、お医者さんにもいろいろかかりました。でも最近は職場の近くの大高薬局の先生のアドバイスのおかげで、考え方もずいぶんラクになり、体の調子もいいですね。

大高先生は、薬が欲しいと言っても、必要以外の薬は、「あなたには必要ない」と売つてくださらない。そんな方なんです。

私は“大高のお母さん”と呼んでいて、ストレスが溜まつたりすると、すぐに駆けつけて、話を聞いていただくんですが、そうすると、不思議なほどに心が安らぎます。

実の母が20年来、養命酒を愛用しています。84歳なんですけど、私より元気なくらいで、「養命酒のおかげかしら」と、よく言っています。父も亡くなるまで夫婦でのんでいました。

病院の薬は副作用があり、怖いという印象があります。その点、家庭薬と言われるお薬は効きめも穏やかですから、安心です。湿布薬や目薬なども、もっぱら家庭薬を使用しています。どんどん新しいものが出てくるなかで、昔ながらの薬は安心して飲めます。そうしたいいものは、いつまでも残していただきたいと思いますね。



伝統的なものっていいですね。 いいものはつづけて欲しい…

画家

水森亜土さん

■いいものを見つけてくれる薬局

行きつけの薬局が三鷹駅の北口にあって、吉田さんというおじちゃんなんだけど、もの凄い勉強家で、マイナーっていうか、あまり有名品じゃなくても、全国からいいものを集めてお店に置いてくれるんですよ。

例えば目薬なんかは、九州の、どこだったかな、わざわざ取り寄せててくれるんです。それは、お年寄り向けの目薬で、とても気持ちよくて、作曲家の小林亜星さんなんかにもあげています。

洗剤なんかでも、これもなかなかいいんですけど、トイレを洗うやつで、いい匂いがするんです。それと、うちの姉はそそっかしくてね、よく転んだりするんですよ。そんな時に使うのが、湿布、これも有名じゃないけど、不思議なほど、すごくいい。

その薬屋さんは勉強熱心なうえに親切で、こういう系は駄目とか、おかしいと言うと、すぐに研究を重ねて探して下さるの。信頼できるというのか、よく相談にのってくれるのね。それで、昔からいいといわれている物をお客さんの身になって集めてくれるんです。本当にいい方で、内科の先生とともに、私の主治医さんみたいな薬局さんです。



東京・日本橋生まれ。本名は森亜土。桜蔭学園高校、ハワイのモロカイハイスクール卒業。画家のかたわらイラストレーター、ジャズ歌手、役者等多彩な才能を発揮。著書『イラスト青春アドバイス』等。劇団未来劇場所属。

(未来劇場で)

■おばあちゃんの知恵が一番

日本って、なんでもさ、新しいもの、新しいものって、イメージチェンジばっかしているでしょう。昔ながらのいいものっていうのは、おばあちゃんの知恵じゃないけど、病気になった時はおばあちゃんの知恵が一番いいですね。梅干しとか、生姜とか、ああいうのもいいし、コマーシャルベースよりも伝統だと思うんですよ。

昔からのいいものなのに残らないことがよくあるんですけど、残念ですよね。むかしからのいいものは続けてほしいな。伝統的なものって、すごく良心的ですし、安心できるし、やっぱりいいですね。

小さいときから健康で、病気といえば風邪をひくぐらいですが、食べ物はなるべく自然のもの、昔のものを食べるようにしています。「七色元氣」と名付けたハトムギ、ドクダミ、ササ、柿の葉、枸杞等7種類をブレンドしたお茶を飲んでいますけど、なんとなく調子いいですね。

心臓を守りつづけて85年

●家伝薬「ひとつぶぐすり」

救心製薬の創業者堀正由が、富山から堀家に伝わる「ひとつぶぐすり」を携えて上京したのは明治が終わり、元号が大正に変わったばかりの頃です。大正2年2月、堀は浅草区田島町（現在、台東区西浅草2丁目）に堀博愛薬房を開き、家伝薬「ひとつぶぐすり」を「ホリ六神丸」とし発売したのが始まりです。

そもそも六神丸は中国では、長い歴史を持った製剤でしたが、我が国へ紹介されたのは比較的新しく、明治時代の後半といわれています。このホリ六神丸は配置販売を中心に売られていましたが、堀は同業者と同じ土俵で商いをしても、飛躍は望めないと考えるようになっていました。当時、六神丸は万能薬のように考えられていましたが、堀自身、北は樺太から南は九州まで数多くの家庭を回り歩いて、直接愛用者に接した感触から、「動悸」や「息切れ」といった心臓に関連した症状に良く効くという声が多く、それがまた、この製剤の一番の特徴なのではないかと考えるようになりました。

●適応を表現したネーミング

このような愛用者の声をもとに堀は寝食を忘れて研究に没頭し、処方や丸剤の大きさなど、改良に改良を重ねて生まれたのが救心の



創業当時（大正2年）
堀博愛薬房から発売された「ホリ六神丸」

原点なのです。

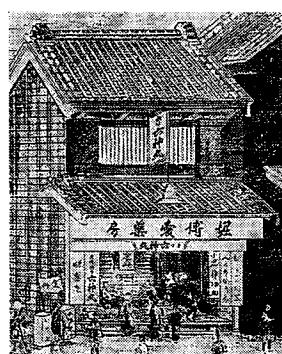
さらに新しい販売形態を模索しながら、思いついたのが救心というネーミングでした。早速、商標登録をし、商号も救心製薬所と改め、救心の販売を始めました。

適応を直接表現した分かりやすい商標は、販売方法を配置販売ではなく、通信販売を利用した点や、新聞、雑誌などのマスコミ媒体の積極利用も幸いし、次第に有名ブランドに成長して行きました。ブランドが浸透すると薬局などからの引き合いが多くなり、卸を通して薬局・薬店での販売形態へと変容し、現在に至っています。

●伝統薬を現代に生かす努力

救心は蟾酥、牛黃、麝香といった動物生薬を中心とした強心薬です。原料は天然物ばかりですから、昨今の地球規模で進む環境の変化は、直接製品の品質に響いてきます。特に救心の原料である動物性生薬は植物性のそれと異なり、農家へ栽培や飼育の委託を行うといったようなことも難しい面が多く、バイオテクノロジーによる原料の人工培養などの技術も、植物性の生薬と比較すると、未だ進展しておらず、野生の原料に頼らざるをえません。

このため生産国と生薬原料購入について長期契約を結んだり、産地の異なる生薬を収集調査するなど、品質の安定、向上に努めてき



大正時代の堀博愛薬房
浅草区田島町（現在・
台東区西浅草）

ていますが、熊胆、犀角、麝香といった成分は、稀少動植物の国際的取引を禁じた、いわゆるワシントン条約に該当することになったため、過去何回かこれに関する処方改訂を余儀なくされています。

しかし、その都度、伝統薬の素晴らしさを一人でも多くの方に理解し、実感して頂くために、最新の医学薬学の知見を活用しつつ、有効性や安定性をさらに高め、より良い製品の製造に力を傾注してきています。

●一つの伝統薬を徹底研究

伝統薬といった場合、歴史の古さのみが、薬効の証とされているような傾向も見られますが、経験に科学の裏付けが伴って、初めて伝統薬のよさを生かすことができる、という現会長堀泰助の考えにより、昭和30年代から英国のハンチンドン・リサーチ・センターなど、国内外での前臨床試験、臨床試験を重ね、一つの伝統薬にこれほど研究を重ねたものはないといわれるほど、薬効の確認、製剤特性の向上、安全性の確立など、あらゆる面



新聞広告/昭和12年2月



昭和7年頃の救心

から救心の品質の向上に力を注いでいます。

あたかもそれは LSI (大規模集積回路) のように、直径3ミリに満たない小さな一粒の丸剤に膨大な歴史的経験と科学的なノウハウを詰め込んだ製剤となっています。

●「世のため人のため自分のため」

救心製薬は創業者堀正由が座右の銘としていた「救病済世」を経営理念とし、「世のため、人のため、自分のため」を社是として掲げています。

企業は利潤の追求を目的としていますが、これは企業が社会的責任と使命を果たしてこそ、初めて生まれるもので、世のため、人のために奉仕した結果が、利益となって、自分のために還ってくるというものです。

この理想は今も救心の一粒一粒に生かされ、誠心誠意作られた救心は日本国内のみならず、東南アジア諸国やアメリカ、その製剤のルーツでもある中国へも輸出され、多くの人々に愛用されています。



救心（強心薬）

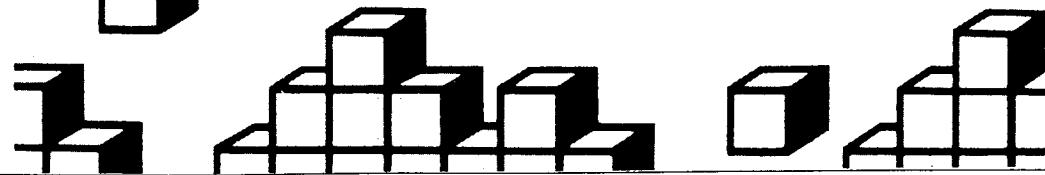
効能・効果

どうき、息切れ、気つけ

成分・分量（1日量6粒中）

センソ（蟾酥）5mg、ジャコウ（麝香）1mg、ゴオウ（牛黃）3mg、ニンジン（人参）25mg、羚羊角末6mg、動物胆8mg、真珠7.5mg、龍脳2.7mg

委員会だより



薬事委員会

委員長 三浦重博

平成9年11月26日に日薬連薬制委員会の全体会議が開催されました。その主な内容と最近の薬制に関する問題についてお知らせします。

1. 規制緩和問題について

(1)輸出用医薬品のGMP適合状況証明書の交付申請の際、当該証明書の提出先国の母国語による根拠条文及びその翻訳等の資料の添付が求められており、この添付を不要とすべく、日薬連において各国の状況を調査し、一括してその資料の提出を行ったので、近くこれら提出済国での資料の添付は不要となる見込みとなっている。

(2)11月21日付の官報告示により、許可等の有効期間の延長が行われ、薬局・医薬品販売業許可は3年から6年へ、医薬部外品の製造・輸入販売許可は3年から5年へ延長されることとなった。

(3)9月22日の中薬審・医薬品販売規制特別部会において、一部の一般用医薬品を医薬部外品乃至医薬部外品類似として一般小売店でも販売可能にすることについて協議が行われ、とりあえず検討を行うべき薬効群として「催眠鎮静剤」など36薬効群を選び、これを別途専門家によるワーキンググループにて詳細が検討されることになった。

(4)その他、日薬連薬制委員会から要望した一般用医薬品のセット販売、医薬品製造業の試験検査設備の利用拡大や分置倉庫、一変申請の緩和などについても現在当局において検討が行われている。

2. 一般用医薬品承認基準に関する検討経過について

「水虫・たむし用薬」について当局から内示があった後、その公布が遅れていたが、漸く3月末までには公表される見通しとなった。その次に検討が予定されている「外用消炎鎮痛薬」については、日薬連より調査結果として当局に提出済であるが、なんら進展していない。

(株式会社ツムラ 顧問)

GMP委員会

委員長 山田正巳

昨年12月3日に日薬連GMP委員会の全体会議が開催されましたので、その内容について報告いたします。

1. 医薬品GMP解説及び事例集の改訂について

すでに日薬連側での作業は終了しておりますが、その後、生物学的製剤等GMP、治験薬GMP等の通知が出ており、それらの通知等も組み入れた見直しをしたうえで、当局に対し、業界側も早く出版を希望している旨を伝え、提出する予定となっています。

2. 不良品等発生防止検討会報告について

平成9年10月24日、医薬監第64号にて、各都道府県衛生主管部（局）長宛通知されました。その内容は全般的な不良品等の発生防止対策として、危機管理を含めた品質保証体制の整備、内部監査、原料及び資材の製造工程等の確認等が報告されており、今後行政の监察において確認されるものと思われます。

3. 國際GMP研究会について

近年、さまざまな分野において国際化が加速し、GMPの分野においても、国際的ハーモナイゼーションへの対応、国際化レベルの品質保証体制等の確立が求められており、従来の医薬品GMP研究会の一環として、「欧



米のGMPの現状と将来」をテーマとして、本年7月開催すべく準備をしております。会場は東京、大阪で、同時通訳で特別講演、パネルディスカッションを行う予定です。

4. 医薬品の輸入管理及び品質管理規則(案)に対する意見等の取りまとめについて

昨年10月9日付で当局より示された、いわゆる医薬品GMPI省令案に対する意見、要望を53件に整理し、12月2日に当局へ提出しました。その中の主なものとして、猶予期間1年を見てほしい、局長通知の時のQ&Aも認めてほしい、英文版を作成してほしい等があります。今後、これらの意見、要望をもとに見直され、海外とも調整後、省令化（許可の要件化）される予定です。

5. 第17回医薬品GMP研究会について

昨年10月30日東京、11月5日大阪、11月11日富山の3会場で開催され、それぞれの会場での参加者は次の通りです。東京が1044人、大阪が1106人、富山が245人、その他地方庁

担当官を含め、合計2500人。また本年の研究会についてのテーマ等でご要望がございましたら、是非ご意見をお寄せください。

(株式会社ツムラ 品質保証部長)

流通委員会

委員長 鈴木國之

我が国の行政改革も、橋本総理が孤軍奮闘の形で推し進めておりますが、各省庁や族議員の抵抗により中々進展を見ないまま推移しております。また、景気の先行きに対する不透明感が高まっている折、世界的な株価の急落も影響し、景気が後退している現状です。

これは消費税率の引き上げによる個人消費の低迷や金融機関の不良債権処理の遅れやゼネコンの大型倒産、さらにはアジア経済の不安等が原因とみなされております。我々の薬業界におきましても、医療関係は薬剤費の抑制策でますます厳しさを増しております。また、薬価基準を廃止して薬剤ごとに保険給付に上限を設ける参考価格制に切り換えるなど医療保険制度の抜本的な構造改革が行われようとしております。

会員会社紹介

株式会社アラクス

名古屋市中区丸の内3-2-26

沿革

嘉永6年（1853年）、初代長七氏が名古屋京町に「鑑長」を創業。大正6年（1917年）、荒川長太郎合名会社を設立。大正7年、ノーシンの製造販売開始。平成2年（1990年）、社名を株アラクスと改称。

モットー

より有効で安全な医薬品の製造販売を

通じて、人々の健康に貢献する

社章

旧社名・荒川のARAと無限の可能性を秘めたXとの合成語をデザイン化したもの。

◆ ◆
東海地方きっての老舗で、鎮痛薬メーカーのトップとしてつとに知られ、健康関連創造企業を目指している。



代表取締役会長
荒川長太郎
大正5年生まれ
岐阜薬学専門学校
卒業

これに対して我々の大衆薬市場ですが、消費者の買い控えや顧客の減少等により、前年対比（4～10月）1.2%の売上減になっております。

また、規制緩和等重大な問題をかかえておりますが、このような環境に如何に対処するか、流通委員会といたしまして、10月22日、東西の流通委員が参集し、第42回家庭薬流通懇談会を開催いたしました。以下、協議事項をご報告いたします。

(1)医薬品流通規制緩和の問題

まず、医薬品流通規制緩和の流れにつき説明があり、さらに中央薬事審議会の中に設置されました医薬品販売規制特別部会の第1回、第2回、第3回の会議の内容をさらに検討しました。

また、第3回会合の薬効群のうち36薬効群がなぜ検討の対象とされたかの説明がなされ、それに対する今後の方針等を検討いたしました。

第4回の特別部会は近く予定されており、この時点で大体の内容が判明いたし、さらに行革委員会、国会承認へと進み、実施される予定です。我々としては、主張すべきことは主張し、実施以前に善処に向け、最大の努力

をする予定にしております。

(2)一般用プロモーションコードについて

平成6年4月に「一般用医薬品プロモーションコード」を制定し、各社にて自主的な運営を行ってきました。しかし、ドリンク剤の販売方法に医薬品としての販売姿勢として不適切な行為があつたため、平成8年6月20日付にて大衆薬協コード問題委員長談として販売姿勢の自肅の要請がありました。

しかし、最近に至り数社の会社が試飲会等を行った報告があったので、プロモーションコード運営小委員会で該会社の出席を得て今後の販売方法を話し合った結果、これからもさらに趣旨を徹底させ、販売姿勢を直すとのことで了承いたしました。

(3)全商連近畿流懇の開催状況、関西方面への量販店の出店の動向や価格競争の激化問題につき協議

(4)その他

以上のように全家協流通懇談会を行いましたが、我々をとりまく問題は大変厳しく、従来の延長線ではなく、全く新しい状況で展開していくものと思われます。流通委員としても敏捷に対処できるよう、横の連絡をとり、対処に全力を傾注する所存です。今後ともよ

会員会社紹介



大草薬品株式会社

神奈川県横須賀市森崎1-17-15

沿革

昭和6年（1931年）、大草義巳氏が弘真堂薬局を開業。9年製薬業開始。31年、大草製薬㈱設立。41年、大草薬品㈱に改称。51年、大草薬品販売㈱を創立発足。55年（1980年）11月、本社工場を建設。現在に至る。

経営理念

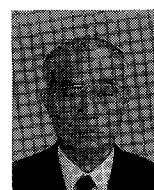
顧客主義・品質主義・人間主義

社章

社名「おおくさ」をローマ字で図案化。



創業以来、大草胃腸薬、弘真胃腸薬、大草丸、カゼコールをはじめ、漢方生薬製剤を主に社会に貢献。品質第一主義を掲げて全社一丸の努力・研鑽を続ける開発志向型製薬企業として高い評価を受けている。



代表取締役社長
大草源三
昭和4年生まれ
昭和薬科大学
卒業
薬学博士

ろしくご指導のほどお願い申し上げます。
(株式会社トクホン 専務)

広告委員会

委員長 山崎 寅

最近の医薬品広告における最大の話題は何といつても胃腸薬のスイッチOTC「一般用H₂プロッカー」の広告です。9月に各社一斉に新発売されました。それに先立ち、日本製薬団体連合会、日本大衆薬工業協会の広告委員会で「広告自粛の申し合わせ」を行いました。

テレビ広告については——、
(1)『この医薬品をご購入の際は、医師・薬剤師にご相談下さい。また、服用にあたっては「使用上の注意」をよくお読みになり、用法・用量を守って正しくお使いください』という趣旨にそった内容を、静止した明確な文字で明瞭に表現するとともに、音声でも視聴者が十分に聞き取れる範囲内で表現する。なお、(1)上記の文句をそのまま使用しなくとも、その趣旨にそった内容であればよいが、その文句はできる限り、この文句に近いこと

が望ましい。

②「この医薬品」の文句は「これ」または販売名に置き換えて表現することは差し支えない。また、表現として商品を指さすなどの方法により特定することも差し支えない。

③「明確な文字」とは次のものをいう。

- ア、静止した文字で裏面の大部分を占める。
- イ、文字の背景の画面は、文字の明瞭さを妨げない限度で動いてよい。

(2)CM中には、必ず4つの承認効能を全て音声または画面で表現する。

(3)CMの秒数については、適正使用を促すために十分な情報が提供できる秒数であるよう留意する。

以上がテレビ広告についてですが、新聞、雑誌、業界紙誌、ラジオの広告についても、これに準じます。なお、印刷媒体ではこのご注意をゴシック体13級以上の活字で明確に見えやすい場所に記載することになっています。

また、今回の自粛申し合わせでは、インターネットにまで言及しています。この場合、テレビ広告の場合に準じた方法で「使用上の注意」を記載することになります。

(株式会社金冠堂 社長)

会員会社紹介



小林製薬株式会社

小林製薬 大阪市中央区道修町4-3-6

沿革

明治19年(1886年)、小林忠兵衛氏が名古屋市中区門前町に創業した雑貨・化粧品・洋酒の店「小林盛大堂」が源流。大正8年(1919年)に従小林大薬房となり、昭和31年に現社名に改称。

経営理念

人と社会の快を創る
社章

小林の“小”をベースに21世紀に向けて
創快企業を目指す小林製薬の精神を、
幸せの青い鳥に託して表現。

◆ ◆
アンメルツ、のどぬーる等の家庭薬を開発するメーカー事業と薬局・薬店向け卸事業、医療機器の輸入販売事業の3つからなる創造革新企業を目指して
いる。



代表取締役社長
小林一雅
昭和14年生まれ
甲南大学
経済学部卒業

労務委員会

委員長 藤原哲夫

今回は、昨年9月に行いました定例会議を中心に活動報告をさせていただきます。9月の定例会議は、毎年、軽井沢にありますツムラ山荘に場所を移して開いており、今回も例年通り1泊2日の合宿形式で開催しました。

労務委員会は、秋山錠剤、河合製薬、浅田飴、わかもと製薬、イチジク製薬、救心製薬、養命酒製造、太田胃散、トクホン、龍角散、原沢製薬、東京甲子社、金冠堂、ツムラの14社が、労務関係の諸問題について定例会議を開催して、その時期に最適な議題を選んで情報交換および話し合いを行っています。

今回の議題は、定年退職、役職定年制、早期退職優遇制度等について、活発な情報交換を行い、非常に意義ある会議となりました。

定年60歳が平成10年4月から、努力義務から遵守義務となることによる、今後の対応の参考とすべく情報交換を行いました。

年に1度の宿泊しての定例会議であり、会議終了後もさまざまな内容の情報交換および

話し合いが行われ、非常に意義ある定例会議となりました。

次回の定例会議では、賞与交渉に関する情報交換を行う予定であります。

今後、男女雇用機会均等法、労働基準法、育児・介護休業法が改正され、平成10年4月および平成11年4月から施行されることとなり、この改正を機に企業はこれまでの人事管理の見直しを迫られることになります。改正内容への対応方法を今後の議題として取り上げ、労務委員会加入企業がスムースに対応できるよう、情報交換を十分行っていきたいと考えております。

今後も参加各社の労働条件が向上していくよう、労務委員会を積極的に運営していきたいと思います。

(株式会社ツムラ 人事部長)

厚生委員会

委員長 石原道郎

11月6日にGMP委員会と共同で、第8回GMP研修会として、静岡県富士市にある藤沢薬品工業株式会社富士工場の見学会を実施

会員会社紹介

参天製薬株式会社

大阪市東淀川区下新庄3-9-19

沿革

明治23年（1890年）、田口参天堂として創業。大正14年、参天堂懃設立。昭和33年、参天製薬懃と改称。

理念

目と健康をテーマとして最高の製品とサービスで社会に貢献する

コーポレートスローガン

ひと・ひとみ・すこやか。

社章

SantenのSが、右上方に飛翔し、「天機に参与する」（社名の由来）という姿勢と企業の成長、拡大を示唆。



明治30年「大学目薬」を発売以来、一般用目薬を主力に発展。戦後、医療用医薬品分野へ進出。眼科用剤では国内トップ、世界2位の地位を築いている。



代表取締役社長
森田隆和
昭和20年生まれ
慶應義塾大学
大学院
工学研究科修了



しました。

当日は午後1時に新富士駅に集合し、一同26名揃って専用バスで見学先を訪問、13時30分より太田工場長の挨拶をはじめ、関係者からビデオを含めた工場概況の説明を受けた後、2班に分かれ、各自工場専用服に着替え、1時間余にわたり、製造関係の作業状況を見学しました。

その後、GMPに関する質疑応答が行われ、見学者一同大いに参考となり、工場長以下幹部の皆様に見送られながら同社を辞しました。

引き続いて専用バスで焼津市のホテルアンビア松風閣に移動し、参加者全員による懇談会を開催し、情報交換をはじめ、有益なひとときを過ごし、翌日、朝食後解散しました。

今回は特に工場のGMP関係者が多数参加されましたが、本年も6月には組合員による懇親会、秋にはGMP研修見学会を実施する方針でありますので、なにとぞご希望やご意見などありましたらお寄せいただくとともに、多くの方々のご参加をお待ちしております。

(石原薬品工業株式会社 社長)

総務・財務委員会

総務委員長 鈴木規允^{*1} 財務委員長 堀正巳^{*2}

昨年2月に総務委員会の下部組織として発足した協業化研究部会は、その後、共同配送問題などに関し検討を続けてきましたが、情報提供を含め、今後の活動をより一層積極的

に推進するためには、委員を増強するとともに、部会を発展的に解消して、単独委員会として活動すべきであるとの部会員一同の結論に達し、9月の理事会で承認を得て、藤井隆太理事（株式会社龍角散社長）を委員長とする「情報協業化委員会」が発足することとなり、10月から11名の新委員により協議が開始されました。今後の成果が大いに期待されるところです。

11月13日には正副理事長を交え、総務・財務担当理事懇談会を開催し、組合の中間決算状況をもとに、今後の予算執行について協議を行った結果、組合ビルの5階の一部改修工事及び各階廊下などの塗装工事、その他、不用物の撤去工事を実施し、少しでも働きやすい組合ビルにするよう努力しています。

^{*1} (株式会社トクホン 社長)

^{*2} (救心製薬株式会社 社長)

消費者対応委員会

委員長 鯉沼信二

消費者対応委員会では、8月26日に待望の第2回消費者対応窓口担当者の研修会を開きました。当日、委員会からの報告として全家協で行った『第二回消費者からの苦情の実態調査』の集計結果、東家協で行った『使用期限の表示の実態調査』の結果、また、特別講演としてカシオ計算機のお客様相談センター所長の馬場智男氏の「企業における悪質クレームの対応について」の講演がありました。

『苦情の実態調査』では、アンケート回答企業は第1回の調査では64社、第2回のそれは65社で、今回の方が1社多かったのですが、消費者相談で、1.22倍、苦情で1.09倍と、自然増と考えられる程度の増加でした。しかし、第1回、第2回ともに共通して回答をしていただいた企業は49社ですが、この比較では消費者相談で2.05倍、苦情で2.71倍と今回の方が大幅に増えておりました。この原因についてはいろいろと考えますが、第

1回、第2回調査の中間にPL法の施行があったことや、企業におけるお客様相談室が充実されたために相談記録がしっかりと残っていることなども考えられます。しかし、いろいろな状況から判断しますと、やはりPL法の影響は少なからずあるように思われます。

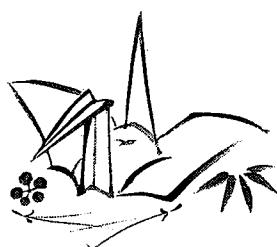
『使用期限の表示』に関しては、東家協組合員企業に対して調査を行ったのですが、回答企業33社のうち、使用期限を記載していると回答した企業は5社しかありませんでした。しかし、この33社に1年間に寄せられた使用期限に関する問い合わせは、2,568件で企業に寄せられる相談の3%強を占めております。

「家庭薬は歴史があり、従来のままで良い」「消費者からの問い合わせでトラブルになった例はなく、逆に使用期限を記載したためにトラブルになった例がある」などの意見があり、企業全体で使用期限の記載に賛成とはいきませんが、私達、消費者担当の仕事を行っている者の立場からすると、記載した方が親切と思います。

いずれにせよ、タバコや食品に賞味期限が記載されている時代ですから、時代の趨勢ということで、使用期限の記載は必要になると思います。

特別講演は「企業における悪質クレームの対応」についてでしたが、馬場講師の話では、最近の悪質クレームは暴力団関係のものは減り、一般の消費者からのものが増えていくとのことです。その対処を自分の経験から話され、非常に有意義な講演でした。

研修会の参加者は54名、最後に参加者に意



見を聞いたアンケート調査では「ぜひ、このような研修会を」という意見が多く、私達委員もこの反響を見て、皆様のお役に立つならば、次回の研修会もできるだけ早く企画し、また、皆様にお会いしたいと考えております。

(株式会社トクホン 学術情報室部長)

広報委員会

委員長 友田真二

創立50周年記念号に宇津救命丸の宇津社長の、家庭薬の共同キャンペーンを、大和生物研究所の大泉社長は、買う人の立場に立った攻めの経営を、建林松鶴堂の建林社長の共同化による組合のメリットアップに、原沢製薬の原澤社長の企業継続のメリハリある経営を…、等々と若手経営者の積極的なご提言とご決意が発表され、今回、龍角散の藤井社長を委員長、双葉製薬工業の五味社長、玉川衛材の玉川社長を副委員長とする「情報協業化委員会」が、上記の方々を主要委員として新たに発足し、活動を開始しました。

我々広報委員も『かていやく』がお役に立っていると、大いに意を強くした次第であります。

今号は外部の人の声もと、業界紙の編集者、消費者、著名人に、提案、インタビュー等で苦言を含めて特集してみました。耳の痛い話ですが、これからも課題もあります。

松井寿一さんには笑いの重要性でジョークの生かし方等を寄せていただきました。

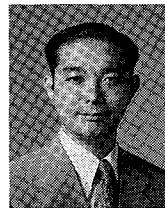
情報協業化委員会はじめ、各委員会活動は組合全体のためのものですので、事務局をご活用ください、各組合員のお役に立てれば幸いです。

津村最高顧問を失ったことは言葉に尽くせません。広報委員会の生みの親でもあり、漢方の先覚者として敬愛した者の一人として、ご遺志を引き継ぎ、伝統薬の普及と繁栄のために更なる努力を誓いたいと思います。

(三共エール薬品株式会社)

可能な限り現実的に協業化を検討

情報協業化委員会委員長
藤井隆太



■喜久水酒造の例

信州の飯田市に「喜久水」という銘酒があります。水の豊富な飯田市、下伊那地方には元々37軒の酒造家がありました。第二次大戦当時、政府の統制によって酒造業態の企業整備方針が打ち出され、昭和19年、その37軒が企業合同して下伊那酒造㈱が設立されました。その際、銘柄を「喜久水」に統一したのだそうです。

当局の方針では、OEM供給レベルのものから企業合併レベルにまで、企業整備の方式には幾つかの方法があり、「喜久水」の場合は、当時の管轄税務署の方針もあって、根本的な合同になったとのことです。

37軒の酒造家の結束をより堅固にした出来事が、昭和22年の飯田市大火であったと言われております。約4000世帯も消失した大火で、「喜久水」酒造も点在していた蔵を中心に大損害を被ったわけですが、残存の蔵を中心として立派に再建し、逆に合同体制を貫徹するに大きな布石であったことも事実でしょう。

しかし元々は独立した37軒の蔵元であり、それを束ねるには経営的にも難しかったであろうことが推察されます。その困難を乗り越え、立派に協業化を成し遂げた一つの例といえましょう。現在では当時点在していた蔵も近代的な設備を整えた蔵に統合新築し、社名も「喜久水酒造㈱」と改めています。

一般に酒造会社は個人経営の酒造家から出発した同族経営や、株式を公開した純然たる

株式会社は多いのですが、多くの酒造家が合同して一社を組織した例は極めて珍しいのです。その「和」の一字を堅持して最も困難な企業合同を実現した素晴らしい経営方針は、現在の社風からも伺い知ることができます。

■APSシステムの例

写真の世界でAPS（アドバンスド・フォト・システム）という新しいフィルムシステムが普及しつつあります。

一般用の写真フィルム市場は成熟産業であり、一社の大企業のライセンスによるシステムで市場が形成されてきました。35ミリと呼ばれるシステムがそれあります。35ミリフィルムは元々が映画用フィルムから派生したこともあり、一般消費者には使いにくい面があることも否定できません。過去、それを解決すべくさまざまな新システムが提案されてきました。ところが、その何れもが大きな成功を納めることなく終わっているのです。

APSが過去と最も異なる点は、米大手メーカー1社だけでなく、同業各社やカメラメーカーなどが共同で推進している点です。ライセンスも共同で管理しており、ハードウェアであるカメラに関して、OEM受託メーカーによるラインナップが先行したようです。

真相は定かではありませんが、実際、蓋を開けてみたら、同じような顔をした製品が各社から一度に3つも4つもリリースされたという例は過去にもなかったようです。カメラ

一台の開発コストが1億円以上だと言われていることを考えると、うなづける話ではあります。

成熟した市場で新しいシステムを定着させには、各社とも多額の投資が必要になることは明白でしょう。そこで各社ともリスク分散を狙い、協力して新しいシステムをスタートさせたものと思われます。

APSが今後どのように展開していくかはまだ未だ未知数との見方もありますが、既に一般用フィルムの約20%のシェアを得、しかも、従来からの製品は大きく減少していないという厳然とした事実はあるのです。

■消費者の心理

台湾の電気街に行きますと、どこかで見たことのあるコンピュータがメーカーのバッジも付けずに並んで、OEM受託を待っている光景を目にすることができます。

クルマのボンネットを開ければ、明らかに他社から供給されたエンジンが入っていますし、その系列ディラーでも他社のクルマを販売しています。

この他にも協業化の参考になりそうな例はいくらでもありますが、他の業界の例をそのまま模倣することは現実的ではありません。共通して言えることは、例え業界は異なっても最高の品質の製品やサービスを、最低（適正）なコストで手に入れたいと望むのが消費

者の心理であるという点です。

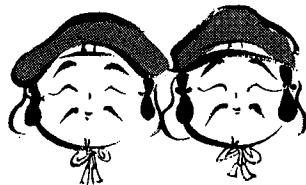
■我々のすべきこと

今後の経営環境を考えた場合、さまざまな要因からコストが上がることは明白です。一方それらに対応して販売価格を引き上げてよいものでしょうか。我々「家庭薬メーカー」が消費者から見て、「歴史とブランドはあるけれど、価格が高くサービスの悪い製薬企業」などということになってはなりません。企業としての実力を高める必然性を、強く実感しております。

その際、東京都家庭薬工業協同組合に加盟する各社が、それぞれ単独で、上昇したコストを負担することが本当に良いのか、各社が協力してできることは無いのかを真剣に討議する必要があるのではないでしょうか。

「古き良き時代」を懐かしんでも何も創造されません。組合に12番目の委員会として発足した当委員会は、可能な限り現実的に、協業化を検討する委員会でありたいと考える次第であります。

- ・委員長 藤井隆太
㈲龍角散 代表取締役社長
- ・副委員長 玉川博之
玉川衛材㈱ 代表取締役社長
- ・副委員長 五味尚志
双葉製薬工業㈱ 代表取締役社長



家庭薬は心配せずにすすめられます。

有限会社大高薬局（東京都港区赤坂） 大高 清・恵美子先生

■副作用がないから安心

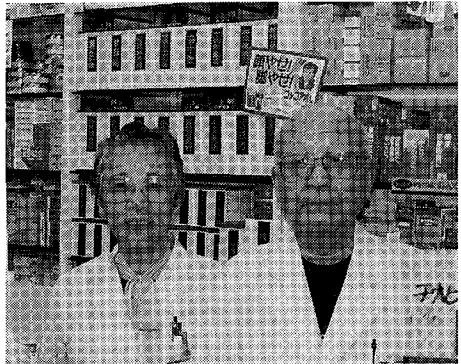
今年でオープン以来ちょうど40周年になります。「お客様の身になって、お客様のためになる薬局」をモットーに店づくりを進めています。

最近は、地上げの影響で夜間人口が減ったうえに、店の両側にチェーン店ができたりしましたので、客数も一時の半分くらいになりました。雑貨はまったく駄目という状態で、あまり芳しい状態ではありませんが、お客様の悩みが少しでもラクになればと思い、店頭に立っています。

客層は地元の人、サラリーマンが大半で、家庭薬の中では、ノーシンとか、正露丸とか、サロンパスとか、トクホン、目薬、養命酒、恵命我神散、救心などがよく動きますね。

家庭薬の良さは、古い薬というよりも、何百年もの間、ズーッと使われてきて、副作用がない、という点が何といっても一番です。副作用がないから安心して売ることができますね。

この頃の薬は、これこれに注意してくださいとか、注意事項が多く、いちいち注意しなければならなくなってしまっており、使う方もたいへんだと思いますが、家庭薬の場合は指名のお客さまの場合でも、「これ、使ってどうですか」「調子いいんですよ。続けても大丈夫ですね」という感じで、心配せずに売れるのがいいですね。



△大高先生・夫妻

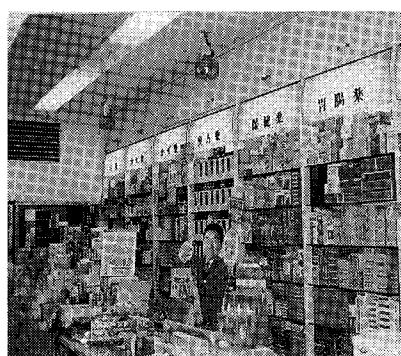
■救急箱には欠かさず家庭薬

家庭薬のお客さまは年配の方が多いのですが、若い人でも、おじいちゃん、おばあちゃんが使正在して、いいからという人もけっこういますね。70~80%が指名のお客さままで、今まで使っていたからと言う人が大半ですね。

あとは、神経質な人とか、新薬が嫌いという人に対するものです。神経質な方の場合は新しい薬をすすめると、これ聞いたことがないからと、拒否する人が多いのですけど、家庭薬をすすめると、「これは聞いたことがある」と、安心して買っていかれますね。

救急箱を作つてと言われることも、よくあるんですけど、その時、そこへ入れるのはたいていが家庭薬ですね。

規制緩和とか、時代は変わりつつありますが、今後もお客様の立場にたった薬局づくりを目指したいと思います。



薬を買ひに来られたお客様には、丁寧に説明をし、余分なものは売らないことから「売らない薬局」として知られる。

（東京都港区赤坂7-10-8）

人の心を明るく、楽しくする笑い



医薬ジャーナリスト 松井寿一

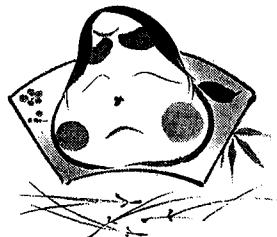
自家薬籠中の物という言葉がある。広辞苑をひくと「自分の薬箱の中の薬のように、いつでも自分のために役立て得る物や人。思うまに使いこなせるもの」と説明されている。知恵や知識もたくさん薬箱の中へ入れておけばいざという時に大変便利である。

何かいい話はないですか。面白い話はないですかと聞かれることがある。ちょっとした挨拶や自己紹介の時に、気の利いた話を織り込むことができれば、話そのものが光り輝くし、聞いている人も感心する。

「ちょっといい話」といったエッセイが読まれているのも、そんな人の気持ちを惹きつけるからであろう。名言、格言、あるいは諺などを話に取り入れる場合もある。俳句、短歌、都々逸、川柳、さらには小噺などもよく使われる。

人の心を明るく、楽しくしてくれるのは、やはり笑いである。思わず笑いを誘う小噺をいくつか知っているだけで、突然の指名でも挨拶を無難にこなすことができる。薬箱の中にぜひ笑薬を入れておいていただきたいものである。

これは面白い話だと思ったら、一週間その話をいろんな人にすることである。そうすれば必ず覚えられる。1年経てば50余の小噺が薬籠中に蓄えられることになる。いつでもどこでも自在に取り出すことができる。



落語の原点『醒睡笑』にみる笑い

寛永5年（1628年）にできた『醒睡笑』という本がある。全部で8巻という大変な量である。睡りも醒まして笑うという書名からもわかるように、わが国初の笑話集とされている。近世落語の原典となっている本である。安樂庵策伝というお坊さんが編んだもので、膨大な話の中から現代でも通用しそうな笑話を選んで、現代語に訳した人が数人いる。

医者や薬の話も結構載っているので、そのいくつかを紹介してみたい。なにしろ話の数は1千を超えており、策伝というお坊さんは70歳まで、京都の誓願寺の住職をつとめ、隠居して89で亡くなるまでの19年間にこの話を集めて書いた人である。

生まは天文23年（1554年）の足利13代將軍義輝の時代であり、亡くなったのは寛永19年（1642年）、徳川3代將軍家光の時代である。戦国の三代武将信長、秀吉、家康の時代を生き抜いた大変なお坊さんである。

美濃国で生まれて幼少で出家し、京都で修行、山陽各地、近畿一円でいくつものお寺を新興、再興する大活躍をみせ、故郷美濃へも錦を飾り、60歳で誓願寺の55世法主となった。『醒睡笑』は実際に見聞した話の他、古くから伝わる書物からも引用したと言われている。

●薬種の名で読経

若い頃、薬屋に奉公していたが、身を持ち崩し、どうにもならなくなって頭を丸め、寺へ働かせてほしいと言ってきた男がいた。

「経は覚えたか」と聞かれ、窮余の一策で「もちろんです」と答えた。その夜、檀家から使いが来て、「明日は親の年忌なので僧衆

10人で読経をお願いします」と言ってきた。かの男もその一人に加えられることとなつた。翌日、檀家での読経が始まると、その男は覚えていた薬種の名を列ねた。「桔梗、人参、続断、白朮、乾姜、白芷、黃連」と…。

●金持ちの臨終

三河の国に宗恵という金持ちの男がいた。生涯どんな病気にかかっても薬を飲んだことがなかった。天寿を全うして臨終という時に、知人が竹田の牛黄円を調合して飲ませようとしても口を開けなかつた。そこで「牛黄円は錢を出して買った薬ではない。ただだ」と言つたら、宗恵は大きな口を開けて飲んだといふ。



●目薬売り

目医者といっても、目薬売りに出かける人が、薬の名をどう書いてよいのか、わからないうま薬包紙をたくさん折つて、全部「紅梅散」と書いてもらった。風眼（目やにの出る結膜炎）にも、そこひにも、とにかく同じ名前の薬ばかり出すので、人々は馬鹿にして笑つた。そこで、宿へ帰ってきてから、薬の名の書き直しを頼んだ。筆を持ちながら、どのような名にしますかと聞くと「牛黄円にしようか木香丸にしようか」と言った。

●老僧と乾鮭

「乾鮭を食べると身が暖まって薬になる」と聞いた老僧が自分の養生のために食べてみたいものだと思い、少し抜けた寺男に「薬として入用だから、乾鮭というものを買ってこい」と言いつけた。寺男はさっそく買ってきて、座敷に客が来ているのに乾鮭をによつと差し出した。老僧は顔を真っ赤にして「その乾鮭をすぐに泉水へ放せ」と言いつけた。

洒落、言葉遊び5題

●天上天下飯（いい）が毒損

どうしても飯（いい）を食べ過ぎる人がいた。同僚がたまりかねて忠告した。「あまり飯をたくさん食べると体によくない。余分に米が必要となるから損だ。そのうえ薬にならぬばかりか、大毒だから両損だ」。こう言われた男「そんなこと誰が言ったのだ」と聞き返したら、同僚が「お釈迦様の言葉さ。天上天下、飯（いい）が毒損」。唯我独尊を飯が毒損と洒落たわけである。

●小岩墓ない

時代はぐっと下がって、東京・下町に小岩というところがある。お寺が結構あるのだがお墓が全然ない。「小岩墓ない」つまり恋は偽いの洒落、言葉遊びである。

●鯉は履かない

別の切り口もある。川魚に鱈という魚がいる。鯉という魚もいる。その前に長靴を置いた。どちらの魚がはいたか。正解は鱈がはいた。なぜなら鯉は履かない（恋は偽い）。

●鯉は掃かない

長靴を履かせるというのは無理があるので環境浄化の面から迫った方がいいのではないか、と、新しい切り口を考えついたのが岩城謙太郎先輩である。川が汚れている。川底をきれいに掃除しようということになって、鱈も鮎も鰻も泥鰌も皆んな簫を持って働いたが、中に働く魚がいた。鯉である。鯉は掃かない（恋は偽い）。

●はかない生命

ついでにもう一つ。海へ飛び込んだり、高いビルの屋上から飛び下りたりして自殺する人はなぜか履物を脱いでいく。それで「はかない生命」と言うのである。



追悼 津村重舎最高顧問

偉大な津村重舎さんの足跡

株式会社太田胃散 社長 太田 昭

平成9年7月12日、津村重舎さんは89歳の天寿を全うされました。正に家庭薬業界の巨星墜つの感があり、津村さんを知る人は何人もこれを悲しみ、これを惜しむことあります。茲に謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

津村さんほどご自分の一生を通じ、家業の大成に打ち込まれ、ご自分の家庭を愛し、業界の発展に尽くされた方はいないと思います。また、その人となりの非凡にして風格のあるところは、人を魅了し万人に大きな信頼感を与えるところであり、いわゆる業界のドンという言葉が当てはまるのではないかと思われます。この素晴らしいお人柄は短時日で形成されたものではなく、津村さんのご先祖から連綿と培われ、昇華されたものであります。

津村さんのご先祖は奈良県の山持ちの素封家で、米や木材を手広く商っていた山田家であると伺っています。故人の父君である初代重舎様（以下 敬称略）は、山田家の三人兄弟の次男として生まれ、叔父津村家の養子となられ、津村順天堂を創業された方であります。

長男安民は大阪でロート製薬の前身である山田安民薬房を創業された方であり、三男の岩吉は初代重舎の事業を助けられた方であります。今日、業界の両雄である東のツムラ、西のロートはこのようにして発足したのであります。

初代重舎には三人の息子があり、長男は幼名基太郎、後の二代目重舎として初代の意思を継ぎ、家業を今日のツムラにまで大成された故人津村さんであり、次男の重孝、三男の幸男は二代目重舎の補佐役として事業の発展に大きく貢献されました。

このように現在の日本を代表する漢方薬メーカーであるツムラを創り上げたのは、奇しくも初代、二代ともそれぞれ三兄弟の力によるところが大きく、最近のNHKの大河ドラマ「毛利元就」の現代版を見るようなものであります。

津村さんを語るには津村さんのご両親のことを言及しなくてはならないと思います。津村さんの父君である初代重舎は、明治26年に奈良県より上京、日本橋に津村順天堂を創業された方で23歳の若さであります。生来、バイタリティー豊かにして、フロンティア精神に燃えた方で、意思強固にしてなかなか商才のある方であったと伺っています。

中将湯を主力商品として種々の漢方薬を発売、事業の拡大と共に、漢方薬と生薬に対する開発の執念はいやがうえにも高まったものでした。その結果、中国交易を目的として株東亜公司を設立、上海に進出され、研究所及び薬草園等の新設により、漢方薬及び生薬の振興に大きな力を注がれたものでした。また、政治面においても東京市会議員に当選、後に貴族院議員に推挙され、政財界に人脈を持たれ、成功されました。

津村さんが尊敬する父君を語る一つとして、「正しいと思ったことは絶対に曲げないでやり通す」であります。これは昭和11年に2・26事件が起こった頃のことですが、日本の軍部が政治に深く介入してきたことに対して、初代重舎は貴族院議会に於いて、これを痛烈に批判されました。

これに対し軍部は強い圧力をかけてきましたが、重舎は議員を自ら辞任したうえで、尚もその主張を曲げなかつたのであります。この何事にも負けることのない強い信念は二代

目重舎である津村さんにも立派に受け継がれたのであります。しかも津村さんは、これに「何事も我慢が大切である」ことを仏教の教えから学ばれたものであります、この二つの強い信念の組合せが、ご事業の大きな成功をもたらしたのであります。

また、津村さんの母君の御子さんに対するスバルタ式の厳しい教育が、津村さんの人間形成に良い影響を与えたことを挙げることができます。津村さんは『漢方の花ひらく』なる自叙伝に、「私が一人前の人間になるために欠かせない訓練を、母が与えてくれたのだ」と書かれておられ、ご両親に対する敬愛の念を常日頃、持たれておられたことは誠に素晴らしいことであります。

津村さんの事業の輝かしい成功は、ご両親から得た強い信念と、漢方薬に対するひたむきな追求の何ものでもないと申せます。二千年の臨床データを持つとも言える漢方薬を西洋医学にドッキングさせる事業に意欲を燃やされたのは津村さんであります。そして、その成功に大きな力を与えてくださった方は、今は故人となられた東洋医学の第一人者である大塚敬節先生と医学界の巨人武見太郎先生であります。

津村さんの熱意は両先生の心を動かし、昭和51年に漢方薬を保険薬として薬価基準に収載することに成功し、昭和57年には㈱ツムラを株式市場第一部企業にまで昇格することを成し遂げられたのであります。

また、業界における津村さんのご活躍も大きく、昭和40年には当組合の理事長になられ、21年間、組合活動を盛り立ててくださり、その間、昭和46年には日本大衆薬工業協会の前身である日本大衆薬懇談会の設立、昭和45年には世界大衆薬協議会（WFPMM）の発会準備会に西ドイツのバーデンバーデンへ日本企業団の団長として活躍される等、大

きな貢献を残されました。

この準備会には、私も浅田飴の故堀内伊太郎さん等と出席しましたが、バーデンバーデンの白亜のコングレスハウスに向かって黄一色の絨毯を敷きつめたような大銀杏林の中を歩いてこられる津村さんのスマートな英國紳士風の恰好よさが今でも目に浮かびます。

また、津村さんのいち早く漢方薬の原料の最大供給国である中国に対して大きな関心を持たれたことは特筆すべきことであります。これは現在欧米諸国が薬剤の原料生産国である中国に注目し、積極的にアプローチを行っていることを思えば、津村さんは先見の明があったと申せます。

すなわち昭和53年頃より中国政府と接触を保ち、何回となく訪中され、56年には中国衛生部中医研究院と共同研究することに調印されたことは大きな収穫であります。

余暇に於いて、ゴルフ、唄、水彩画、酒と津村さんはいつも若輩であった私達と楽しまれたものでした。何をなさっても非常に練習熱心な方で、最後にはそれをものにしてしまったものでした。もし、まだお元気であったなら、きっと負けず嫌いを発揮されて、楽しく頑張られたことと残念でなりません。

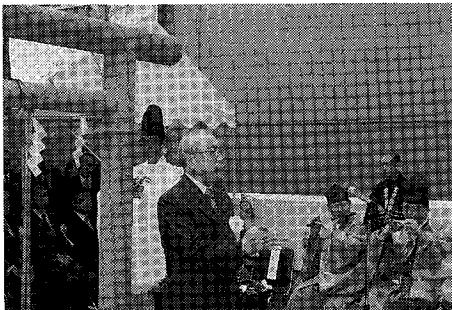
また、ご家族を愛され、大切にされた方で、内助の功を尽くされた奥様をいたわられ、ご長男の昭様に対しては、福沢諭吉先生の独立自尊の精神を以て理解を示されて居られることに敬服の念を禁じえないものであります。

最後に我々に課せられた命題は、津村さんの主張される漢方薬及び生薬の驚異的ともいえる未知の成分に対する科学的解明を、これから如何に始めるかであります。

偉大な津村重舎様のご冥福を心からお祈り申し上げて、筆を擱かせていただきます。

家庭薬グラフティー

■薬祖神祭



▲塩澤護理事長の玉串奉奠
(10月17日、東京薬事協会で)

■薬業四団体受賞者祝賀会



東京都知事賞を受賞された
救命機の堀正巳社長

■GMP研修旅行



▲(11月6日、藤沢薬品工業株富士工場で)

■受賞者祝賀会兼忘年会



▲(12月11日、組合会議室で)

■第55回家庭薬軟式野球大会

小林製薬株式会社（製品事業部）が優勝

平成9年10月19日より明治神宮外苑軟式野球場において、組合恒例の野球大会が24チーム参加のもとに熱戦を展開し、幸い好天に恵まれ、予定通り11月16日に無事全日程を終えました。

優勝は、前回三連覇を達成した株大木チームが第2試合において養命酒製造株のBチームに敗れ、小林製薬株製品事業部チームが獲得しました。準優勝には今回初参加の同社商

事事業部となりました。出場選手の皆様には大変ご苦労様でした。

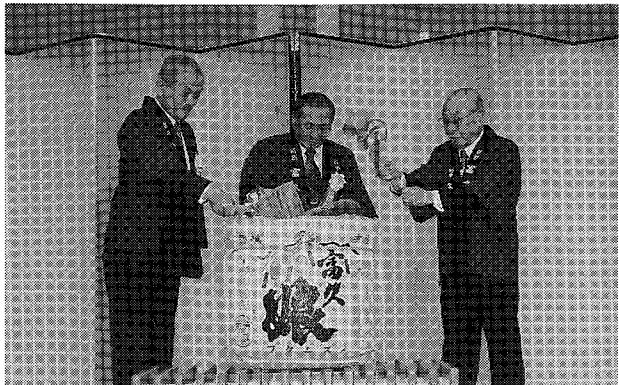
次回のご参加及び健闘を祈念しております。大会成績は次の通りです。

優 勝：小林製薬株製品事業部

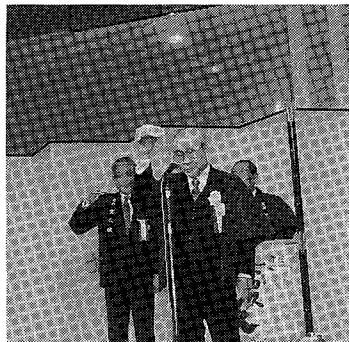
準優勝：小林製薬株商事事業部

三 位：養命酒製造株Bチーム
株ツムラ

■薬業四団体新年賀詞交歓会



▲鏡開きをされる塩澤理事長
(1月7日、赤坂プリンスホテルで)



■平成十年全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会



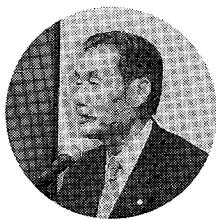
ご挨拶をされる
山田全家協会会長



乾杯の音頭をとられる
塩澤理事長



ご挨拶をされる小林一雅
全国家庭薬卸代表



中締めをされる荒川長太郎
愛知県医薬品工業協会会長



▲(1月7日、赤坂プリンスホテルで)



▲喜びの小林製薬(株)製品事業部チーム



▲惜しくも栄冠を逃した小林製薬(株)商事事業部

事務局だより

●10月3日

第55回家庭薬軟式野球大会の参加24チームによる主将会議を開催し、試合日程その他について打ち合わせを行った。
なお、同月19日より明治神宮外苑軟式野球場にて試合を開始、11月16日に無事終了した。

●10月22日

ホテルオークラで全家協流通委員会、家庭薬流通懇談会が開催された。

●11月6日

第8回GMP研修見学会が静岡県富士市の藤沢薬品工業㈱富士工場で、組合員多数参加のもとに開催された。

同夜は焼津市のホテルアンビア松風閣で懇談会を開催、会員相互の交流と親睦を深めた。

●11月28日

薬業四団体の平成9年度受賞者祝賀会が東京プリンスホテルで行われた。

当組合関係の受賞者は、勲四等旭日小綬章のロート製薬㈱社長山田安邦氏と東京都知事賞を受けられた救心製薬㈱社長堀正巳氏である。

●12月11日

当組合会議室で理事会終了後、組合関係受賞者祝賀会兼忘年会を開催、組合員多数が出席した。

●1月7日

正午より薬業四団体による新年賀詞交歓会が赤坂プリンスホテルで盛大に行われた。また、午後2時より同所において、全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会が行われた。



■組合員の異動

平成9年7月31日に下記の賛助会員が脱退されました。これにより組合員数は、賛助会員を含め67社となりました。

・株式会社サンギ

■訃報

昭和40年から61年までの21年間の長きにわたり当組合の理事長を勤められた当組合最高顧問、株式会社ツムラ取締役相談役津村重舎様には7月12日にご逝去され、8月25日に築地本願寺において社葬が執り行われました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

▷新春早々に東京は時ならぬ大雪に二度も見舞われて、交通も大混乱を来し、日頃の心構えの重要性を反省させられました。昨年は業界にとって明るいニュースは乏しく、メーカーとしての義務は厳しさを増しています。一方、規制の緩和、セルフメディケーションによる需要増の期待も予想されています。

▷永年の伝統と努力に選び抜かれた家庭薬が

活躍できる場も組合員の総力を挙げての対応が実現すれば、道は開かれるはずであります。今回の「かていやく」にも皆様の参考になる幾多の提案が含まれていると信じております。何とぞご活用賜り、お役に立つよう努力いたしますので、ご指導のほどお願い申し上げます。

(三共エール薬品 友田)

かていやく

通巻62号 1998年1月20日

編集人：かていやく広報委員会

発行所：東京都家庭薬工業協同組合

〒104-0061 東京都中央区銀座8-18-16

☎ 03-3543-1786 FAX 03-3546-2792

